

利用に当たって

- 1 この統計表は、主に令和3年度の資料を中心にして、比較できるよう数年前にさかのぼり掲載し、また、最近変わったものについては極力掲載してあります。
- 2 資料は、主に市内官公署、民間諸機関及び本市各課などの報告によるもの又は本市情報課が直接調査収集したもので、その出所を各表の右下部に掲げてあります。
- 3 統計表は、特に注記しない限り館山市内の区域とするもので、各表の区域表示又は各統計表の一般的説明は省略してあります。
- 4 各統計表には、特に説明を要する箇所については脚注に示してあります。
- 5 統計表中、数の単位は原則として各表の上部右端に注記しましたが、一見明らかなものについては省略してあります。
- 6 統計表中、特に注記しない限り年とあるものは1月～12月までの暦年、年度とあるものは4月～翌年3月までの会計年度です。
- 7 統計表の数字は、単位未満を四捨五入してあるので、合計数と内訳の計が一致しない場合もあります。
- 8 統計表の符号の用法は、次のとおりです。
 - 「 0 」 …… 単位未満を含む
 - 「 - 」 …… 該当なし
 - 「 … 」 …… 事実不詳又は資料なし
 - 「 x 」 …… 該当数字はあるが発表を控えたもの
 - 「 △ 」 …… 減少
- 9 利用に当たって詳細な内容を必要とする場合は、本市総合政策部情報課統計係（電話：0470-22-3168）又は、各資料の出所機関に照会して下さい。

総目次

沿革

土地・気象	11
人口	14
事業所	42
農業	45
林業	50
漁業	51
建設	55
工業	58
商業	62
運輸・通信	65
電気・ガス・水道	69
社会福祉	71
保健衛生	74
教育・文化	82
観光	91
治安・消防	92
財政	94
選挙	97
行政	98
主要年表	109
付録 観光一覽	119
市内主要官公署等一覽	122

沿 革

1 市の沿革

冬暖かく夏涼しい自然に恵まれた館山は、天正19(1591)年、里見義康が居城を館山城に移して以後、安房地方の中核都市として栄えました。

江戸時代初期の慶長19(1614)年、里見忠義が伯耆国(鳥取県)に改易されてからは、幕府領、1万石程度の大名領、旗本領、寺社領となり明治を迎えました。

明治4(1871)年廃藩置県によって、本市域は木更津県の所管となりましたが、明治6年に木更津県が廃止されてからは、千葉県となりました。明治22年市町村制の実施によって町村合併が行われ、現在の館山市域は北条町、館山町、豊津村、西岬村、神戸村、富崎村、豊房村、館野村、九重村、凧原村、船形村となりましたが、明治26年門前町として栄えた凧原村が、町制を敷き那古町と改称、さらに明治30年には、港町として栄えた船形村も町制を施行しました。

館山町と豊津村は、大正3(1914)年に合併し、新たに館山町を設置しました。昭和8(1933)年館山町、北条町の合併で館山北条町が発足、さらに昭和14年11月3日、館山北条・那古・船形の3町が合併し、市制が施行され、初めて館山市が誕生しました。その後、町村合併促進法によって、昭和29年5月3日に、西岬・神戸・富崎・豊房・館野・九重の6カ村を合併し、現在の館山市が誕生しました。

現在の館山市は地理的、歴史的背景から、明治11年北条に安房郡役所が設置されて以来、安房地方の政治、経済、文化の中心地として繁栄してきましたが、昭和5年の館山海軍航空隊開隊、さらに館山海軍砲術学校、洲ノ埼海軍航空隊が相次いで置かれたことにより、軍都の色彩を強めました。しかし、終戦と共に、昔の静寂を取り戻し、その後昭和28年に、警備隊(海上自衛隊)館山航空隊が設置されましたが、観光都市として発展をはじめました。

館山湾は別名「鏡ヶ浦」と呼ばれ、波静かな天然の港湾であり、カツオ漁に欠くことのできない餌イワシの供給地として全国的に有名です。館山は気候が温暖なため、江戸時代から白砂青松の地として知られ、文人墨客の滞在も多く、これらの人々は現在の避暑避寒に来房する多くの観光客の先駆を成したといえます。

自然に恵まれた当地方は、昭和33年南房総国立公園に指定されました。その範囲は7市3町におよび、海岸線190kmの内34.3kmを持つ館山市は、昭和39年西岬の見物を中心とした地区に国民休暇村が整備され、昭和48年には西岬地区南側地帯と神戸地区の一部が自然休養村の指定を受けています。

また、半島性を有する当地方ですが、平成9年に東京湾アクアライン、平成19年には館山自動車道が全線開通したことで、都心とのアクセスは飛躍的に向上し、海の玄関口として、平成22年に完成した館山夕日栈橋(館山港多目的観光栈橋)や、平成24年にオープンした交流拠点「“渚の駅”たてやま」などを整備し、館山湾を活用した海辺のまちづくりを進めています。

このように、本市は、市民生活の充実と環境整備を最優先として行い、環境の美化と観光開発に力を注ぎ、一地方の中心都市から、広く首都圏内の休養文化都市として、特色ある個性豊かなまちづくりを着実に進め、将来都市像「笑顔あふれる 自然豊かな“あったか ふるさと”館山」の実現を目指しています。

2 市域の変遷

年 月 日	変 更 理 由	編入面積	総面積
			km ²
昭和 14.11. 3	市制施行		27.15
29. 5. 3	西岬村, 神戸村, 富崎村, 豊房村, 館野村及び九重村を編入	82.56km ²	109.71
40. 3.12	相浜字新田地先公有水面埋立地を編入	4,091.93m ²	
〃	相浜字松崎干潟地先公有水面埋立地を編入	2,104.52m ²	
40. 9.29	船形字大塚・港地先公有水面埋立地を編入	44,689.80m ²	109.76
40.12.17	館山字西大浜・大浜地先海岸砂地を編入	10,182.42m ²	109.77
41. 6.30	船形字西地先海岸砂地を編入	761.50m ²	
46.12. 6	布良字小知谷地先公有水面埋立地を編入	2,303.63m ²	
48. 8.24	館山字大浜地先公有水面埋立地を編入	1,825.80m ²	
49. 6.17	船形字港地先公有水面埋立地を編入	621.01m ²	
〃	船形字新港地先公有水面埋立地を編入	2,481.24m ²	
〃	布良字駒崎・小知谷地先公有水面埋立地を編入	6,214.04m ²	109.78
49. 9.20	西川名字芝崎地先公有水面埋立地を編入	1,540.45m ²	
〃	洲崎字以良世地先公有水面埋立地を編入	1,257.80m ²	
〃	波左間字和田地先公有水面埋立地を編入	2,073.41m ²	109.79
〃	洲崎字間口地先公有水面埋立地を編入	2,380.99m ²	
〃	香字中浜地先公有水面埋立地を編入	1,301.48m ²	
50. 7. 1	安房郡三芳村との境界変更により425.1m ² 減少	△425.10m ²	
54. 4.17	沼字西町浜地先公有水面埋立地を編入	7,029.80m ²	109.80
55. 2. 5	船形字新港地先公有水面埋立地を編入	1,439.48m ²	
〃	相浜字久保浜地先公有水面埋立地を編入	3,667.14m ²	
〃	大神宮字香取地先公有水面埋立地を編入	1,526.91m ²	
〃	布良字大浦地先公有水面埋立地を編入	3,427.01m ²	109.81
55. 5.13	館山字北下台地先公有水面埋立地を編入	5,312.20m ²	
59. 5. 1	布良字小知谷ノ下・大浦地先公有水面埋立地を編入	627.51m ²	
〃	船形字新港地先公有水面埋立地を編入	11,461.59m ²	109.82
63. 8. 2	沼字仲浜・西之浜西地先公有水面埋立地を編入	6,836.81m ²	109.83
63.10. 1	建設省国土地理院改訂(平成元年11月10日公表)		110.19
平成 5. 5.28	船形字新港地先公有水面埋立地を編入	9,118.22m ²	
〃	相浜地先公有水面埋立地を編入	4,444.84m ²	110.20
15. 5.16	沼字西之浜西・仲浜・東浜地先公有水面埋立地を編入	9,631.42m ²	110.21
23. 6.10	浜田字浜町・坂田字嶋田地先公有水面埋立地を編入	11,023.87m ²	110.22
26.10. 1	国土交通省国土地理院改訂(計測方法の変更)		110.15
28.10. 1	国土交通省国土地理院改訂		110.05

(注)総面積は小数第3位以下切り捨て。

位 置



市 域 の 変 遷

昭和 14.11. 3

館山北条町 (20,547人)
 那古町 (4,212人)
 船形町 (5,737人) } 館山市となる

昭和 29. 5. 3

西岬村 (4,924人)
 神戸村 (4,021人)
 富崎村 (3,072人)
 豊房村 (4,484人)
 館野村 (2,942人)
 九重村 (2,690人) } を合併

(注) 人口はそれぞれ昭和10年、
 昭和25年の国勢調査人口
 である。



統計表目次

I 土地・気象

1 位置	11	(17) 世帯の家族類型別一般世帯数及び 一般世帯人員	32
2 土地	11	(18) 世帯の家族類型別 6歳未満世帯員の のいる一般世帯数及び一般世帯人員	32
(1) 土地の現況	11	(19) 住宅の建て方別 住宅に住む主世帯数 主世帯人員及び1世帯当たり人員	34
(2) 地目別民有地面積	11	(20) 住居の種類・住宅の所有関係別 一般世帯数, 一般世帯人員及び 1世帯当たり人員	34
3 河川	11	(21) 住居の建て方別 住宅に住む 65歳以上世帯員のいる主世帯数, 主世帯人員及び1世帯当たり人員	34
4 気象	12	(22) 住居の種類・住宅の所有関係別65歳以上 世帯員のいる一般世帯数, 一般世帯人員 65歳以上の世帯人員及び1世帯当たり 人員	35
(1) 気象表	12	(23) 世帯人員, 住宅の所有関係別 住宅に 住む65歳以上世帯員のいる一般 世帯数	35
(2) 天気現象日数	12	(24) 住宅の種類, 住宅の所有関係別 一般世帯数, 並びに一般世帯人員 一世帯当たり人員	36
(3) 台風	13	(25) 夫の年齢(5歳階級), 妻の年齢(5歳 階級)別 高齢夫婦世帯数	37

II 人口

1 国勢調査	14	(26) 年齢(5歳階級), 男女別 高齢単身者数者数	37
(1) 人口の推移	14	2 住民基本台帳	38
(2) 地区別世帯数及び人口	14	(1) 人口の推移	38
(3) 昼間人口の推移	14	(2) 人口動態	39
(4) 県内各市及び安房郡内の 世帯数及び人口	15	ア 自然動態	39
(5) 県内各市及び安房郡内の 年齢構造割合	16	イ 社会動態	39
(6) 地区別人口の推移	17	ウ 婚姻・離婚・合計特殊出生率	39
(7) 年齢別人口の推移	18	(3) 大字別人口及び世帯数	40
(8) 年齢, 男女別人口	20	(4) 県内各市及び安房郡内の人口	41
(9) 配偶関係, 年齢, 男女別15歳以上人口	21		
(10) 産業(大分類)別就業者数	22		
(11) 産業別就業者構成比	22		
(12) 労働力状態	23		
(13) 産業, 年齢, 男女別15歳以上 就業者数	24		
(14) 産業, 従業上の地位, 男女別 15歳以上就業者数	28		
(15) 世帯の経済構成別一般世帯数, 一般世帯人員, 就業者数及び1世帯当たり人員	30		
(16) 常住地による従業地・通学地別15歳 以上就業者数及び通学者数	31		

III	事業所		VI	漁業	
1	産業(大分類)別, 民営事業所等の推移	42	1	組織別経営体数	51
2	従業者規模別事業所の構成と推移	42	2	自営漁業の専兼業別経営体数	51
3	産業(大分類)別事業所数	43	3	漁業就業者数	52
4	従業者規模別事業所数	43	4	販売金額1位の漁業種別別経営体数	52
5	経営組織別事業所数(民営)	44	5	規模別漁船隻数	52
6	開設時期別事業所数(民営)	44	6	漁業種別別漁獲量	53
			7	魚種別漁獲量	53
IV	農業		8	港の現況	54
1	農業経営体	45	(1)	館山港	54
(1)	個人経営体数及び経営耕地面積	45	(2)	船形港	54
(2)	農家(個人経営体)人口		(3)	富崎港	54
	及び農業従事者数	45	(4)	第1種漁港	54
(3)	経営耕地面積規模別経営体数	46	VII	建設	
(4)	農用機械所有台数	46	1	道路, 橋りょう	55
(5)	家畜・家きんの飼育頭羽数	46	(1)	道路の延長及び舗装状況	55
(6)	主な農作物作付(収穫)面積(農業経営体)	47	(2)	橋の数及び延長	55
(7)	果樹栽培面積(農業経営体)	48	2	市営住宅	55
(8)	施設園芸栽培面積(農業経営体)	48	3	構造別建築物着工状況	56
(9)	農業雇用労働雇入れ		4	建物	56
	農業経営体数と人数	49	(1)	建物の現況	56
2	農地転用	49	(2)	家屋の現況	56
(1)	地目別転用面積	49	5	公園	57
(2)	地区別転用面積	49			
(3)	用途別転用面積	50			
V	林業				
1	保有山林規模別林家数	50			

VIII	工 業		XII	社 会 福 祉	
1	工業の推移	58	1	国民年金加入者数,収納率及び 給付件数	71
2	産業(中分類)別事業所数, 従業者数及び製造品出荷額等	58	2	生活保護法による扶助状況	71
3	県内各市及び安房郡内の 事業所数及び従業者数	59	3	保育園	72
4	県内各市及び安房郡内の 製造品出荷額等	60	4	元気な広場	72
5	県内各市及び安房郡内粗付加価値額	61	5	老人福祉センター	73
			6	身体障害者手帳・療育手帳・精神 保健福祉手帳 所持者数の状況	73
			7	児童遊園	73
			8	募 金	73
IX	商 業		XIII	保 健 衛 生	
1	卸売業	62	1	国民健康保険の加入者数及び 給付件数	74
2	小売業	63	2	介護保険の認定状況	74
3	県内各市及び安房郡内の商業	64	3	介護保険の給付状況	74
			4	後期高齢者医療保険の加入者数 及び給付件数	75
X	運 輸 ・ 通 信		5	医療施設数	75
1	JR東日本駅別輸送状況	65	6	医療関係従事者数	75
2	バス運行状況	65	7	環境衛生関係施設数	76
(1)	JRバス関東	65	8	食品衛生関係施設数	76
(2)	日東交通(株)	65	9	死因別死亡者数	77
(3)	高速バス利用者数	65	10	火葬場利用状況	78
(4)	バス・タクシーの台数	66	11	予防接種実施状況	79
3	車種別在籍自動車台数	66	12	各種検診実施状況	79
4	電話施設状況	66	13	ごみ処理	81
5	郵便物引受配達数	67	14	し尿処理	81
(1)	通常郵便物	67			
(2)	小包郵便物	68			
(3)	年賀郵便物	68			
XI	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道				
1	電 気	69			
(1)	電灯	69			
(2)	電力	69			
2	ガス(都市ガス)	69			
3	上下水道	70			
(1)	上水道	70			
(2)	上水道事業一覧	70			
(3)	下水道	70			

XIV	教育・文化		XVI	治安・消防	
1	学校の概況	82	1	刑法犯認知件数	92
(1)	幼稚園	82	2	交通事故発生状況	92
(2)	小学校	82	3	消 防	93
(3)	中学校	83	(1)	消防団員数	93
(4)	高等学校	83	(2)	消防機器台数	93
(5)	特別支援学校	83	(3)	消防水利数	93
(6)	各種学校, 専修学校	83	(4)	火災による損害状況	93
2	学年別児童, 生徒数	84	(5)	救急車出場種類別件数	93
(1)	小学校	84			
(2)	中学校	84	XVII	財 政	
3	学童クラブ	85	1	一般会計当初予算	94
4	図書館	86	2	一般会計当初予算の 性質別内訳	94
(1)	蔵書数	86	3	特別会計当初予算	94
(2)	図書貸出件数	86	4	公営企業会計当初予算	94
(3)	館外貸出登録者数	86	5	市債(一般会計)	95
(4)	地域別館外貸出登録者数	86	6	性質別普通会計決算額	95
5	指定文化財数	87	7	市税徴収実績	96
6	宗教法人数	87			
7	社会体育施設利用者数	87	XVIII	選 挙	
8	市営プール利用者数	87	1	永久選挙人名簿登録人員	97
9	博物館入館状況	88	2	選挙投票状況	97
(1)	本館(館山城)	88			
(2)	“渚の駅”たてやま(渚の博物館)	88	XIX	行 政	
10	学習等供用施設利用状況	88	1	議 会	98
11	コミュニティセンター利用状況	89	(1)	議会	98
12	地区公民館利用状況	89	(2)	本会議開会日数と案件数	98
13	赤山地下壕跡入壕者数	90	(3)	党派別構成	98
			(4)	議員名簿	99
			(5)	歴代議長	100
			(6)	歴代副議長	101
XV	観 光		2	委 員	103
1	宿泊施設の状況	91			
2	目的別観光客入込状況	91			

3	執行機関	104
(1)	歴代市長	104
(2)	歴代助役・副市長	105
(3)	館山市機構図	106
(4)	職員数	108
XX	主要年表	109

付 録

	観光一覽	119
	市内主要官公署等一覽	122